



まぜると世界が変わる

障害者の芸術活動
支援モデル事業@宮城
2016－2017

障害者の芸術活動 支援モデル事業@宮城

障害のある人の表現活動を支えるためには、どのような支援が必要でしょうか。わたしたちはモデル事業を実施し、そのノウハウを積みあげ、全国に普及していくことを目的とした活動を行っています。障害者の芸術活動に関するさまざまな相談をうける障害者芸術活動支援センターの設置をはじめ、著作権保護や芸術活動支援に関する研修、作品の調査・発掘、評価・発信にかかる取り組み、また自治体や各種関係機関とのネットワークづくりなど、2016（平成28）年度は多様な実践が全国10カ所で実施されています。宮城県もその1カ所として採択され、特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン（東北/東京）がこの活動を推進しています。

まぜると世界が変わる

障害者の芸術活動支援モデル事業@宮城

2016—2017

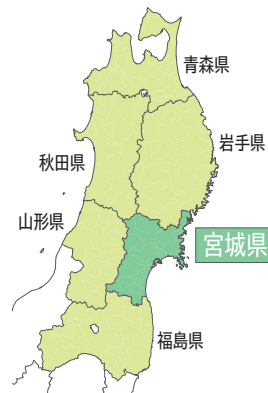
04	障害者の芸術活動支援モデル事業@宮城について
08	chapter 01 3年間の活動で、みえたもの。 SOUPのケーススタディ 2014—2017
34	chapter 02 寄せられる声／応答する取り組み 相談支援研究会&研修報告
46	chapter 03 障害のある人の芸術文化活動の、いま。 「調査・発掘、評価・発信」事業概要
56	巻末付録 SOUP2016年度活動実績、 宮城の作家紹介
62	協力委員、講師／ファシリテーター／調査・発掘、評価・発信委員、 東北・東京事務局スタッフ一覧



障害者の芸術活動支援 モデル事業@宮城について

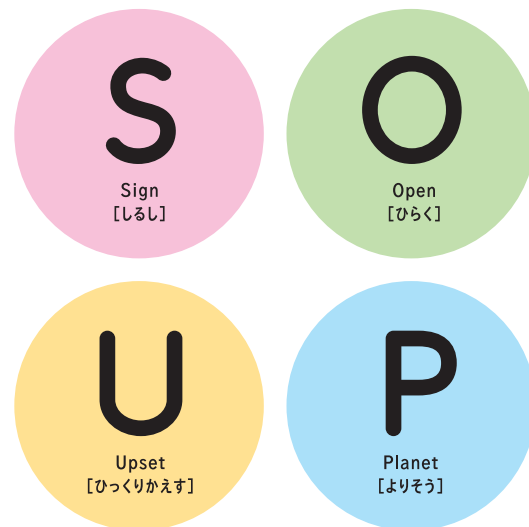
実施地域の現状

宮城県は政令指定都市仙台を抱えた、人口約232万人が暮らす東北の中心地です。美術や音楽、演劇など、さまざまな芸術文化活動が精力的に行われていますが、一方で障害者の芸術活動の充実度には差があるということが本モデル事業の協力委員会で確認されました。2014（平成26）年度に本モデル事業により設置した“障害者芸術活動支援センター”が窓口となり、相談支援事業、人材育成事業、参加型展示会の巡回により、広がりや深まりのあるネットワークが生まれました。06ページの図はこの3年間にわたるわたしたちの歩みを示したものです。



わたしたちの理念 — 障害から価値へ —

障害者芸術活動支援センター@宮城は、障害のある人が自由に表現し、芸術文化にアクセスすることを支援しています。またこのセンターは、障害のある人による芸術活動を通して、障害のある人への社会的なイメージを変えること、これを支える人材を育成すること、真に豊かな地域をつくることに貢献します。さらに東北全体の障害者芸術をけん引する役割を果たすことをめざして活動してきました。



障害者の芸術活動支援モデル事業@宮城の活動チームの愛称: SOUP

2016年度 障害者芸術活動 支援センター@宮城 事業の概要

1. 相談窓口の設置（通年）と相談支援研究会（2回）

●障害者芸術活動支援センター@宮城は、芸術活動を行う障害者およびその家族並びに福祉事業所や地域のアトリエなどで障害者の芸術活動の支援を行う人たちの相談に対し、福祉・芸術文化・教育・市民活動セクターなどの機関やアドバイザーと連携し対応しました。

●事務局は[相談・記録・検討・対応・結果・検証]の相談業務のフローを学びこれを実施できるようにつとめました。

●事務局の相談・対応の質的向上およびアドバイザーとのネットワーク構築を目的とし研究会を行いました。「教育編」では宮城県と仙台市の教育および福祉課の職員、「芸術編」では宮城県と仙台市の芸術文化施設の学芸員や職員、大学教員、弁護士、NPO職員等です。これにより多様な相談へ対応できる環境と質の向上をはかろうとしています。

※詳細は 03 36-37ページ

2. 人材育成のための研修

(ア) 著作権等の権利保護に関する研修（計2回）

宮城県でも作品の出展、販売、二次利用の機会が増えてきました。これまで同様、著作権の考え方、生かし方を対話形式で学ぶ「基本編」「応用編」を実施しました。

(イ) 障害者への美術活動の支援方法に関する研修（計11回）
活動を推進しつづける人たちと、活動をしたいけれど何から手をつけたらいいかわからない人たちの差異がみえてきた3年目でした。そこで、2016年度も以下のような分類で企画しました。

(i) 関心層を掘りおこしていくためのワークショップ型研修（6回）、(ii) 参加型展示会に向けた実践研修（4回）、(iii) 活動実績のある人たちのステップアップ研修（1回）

※詳細は 03 38-41ページ

3. 関係者のネットワークづくりと参加型展示会の開催

参加型の展示会は、初めて栗原市（宮城県北部／人口7万人）で開催。また石巻市と山元町では地域のNPOに企画運営を委託しそれを後方支援するかたちで2回目の展示会を実施しました。名付けて「参加型展示会：宮城のホップステップジャンプ」。地域の美術館との協働、美術大学との協働、町の復興イベントとの相乗、3会場を巡るアートイベントなど多彩なマネジメントがひかる年となりました。さらに、仙台市（県庁所在地／政令指市／人口108万人）の展示会では、3年間の取り組みとそのネットワークを「SOUPのレシピ展 10のレシピ・100のキーワード」として紹介しました。

※詳細は 03 10-11、32-33ページ

4. 調査・発掘・評価・発信事業

●アンケート調査

これまで出会ったことのない作家や支援者の情報を得ることを目的に、宮城県内の中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校（中学部以降）、社会福祉施設、民間のアトリエ、障害のある作家などを対象にアンケートを実施しました。

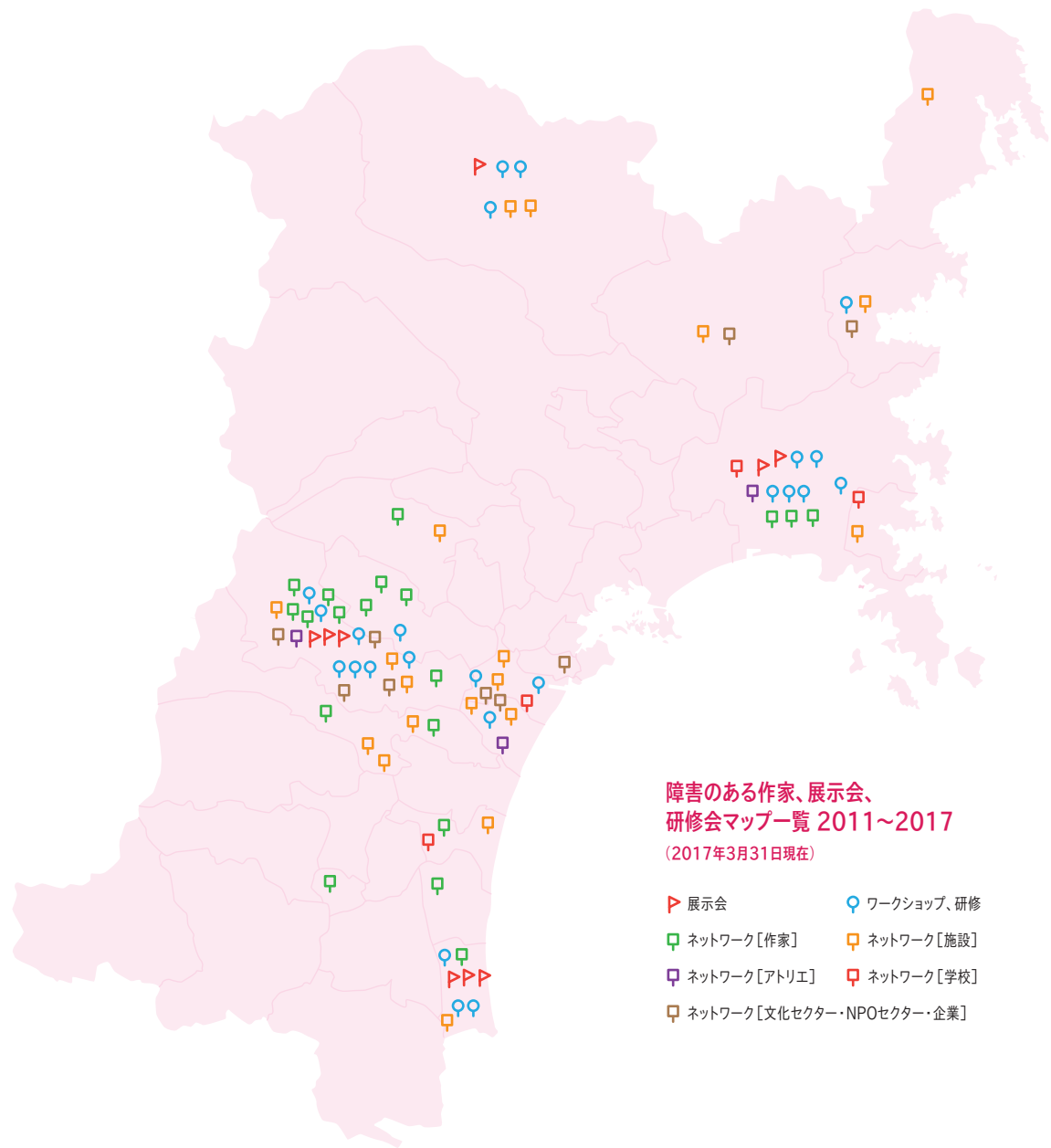
●訪問調査、発掘

アンケートの結果から、調査・発掘、評価・発信委員会と事務局が、障害のある個人・団体、特別支援学校ならびに支援学級を抽出し、訪問調査を実施しました。2016年11月から2017年2月の間で、特別支援学校1、高等学園1、特別支援学級1、福祉施設4、個人5か所を訪問しました。

●評価・発信

委員会で、①現代アート（作品・表現の評価）、②作品の売買（美術市場等）、③二次利用（商用利用等）、④環境、これら4つの視点を評価軸とし、作家・作品・活動の評価を実施しました。アンケートおよび訪問調査で見聞した人合計44人から、最終的に22人の作家を選定しました。原画を集荷し、作品を撮影・スキャンしてデジタルデータを作成。また、創作活動のきっかけ、様子、発表履歴を集め、それを編集してプロフィールを作成。あわせてwebサイトで公開しました。

※詳細は 03 46-55ページ



協力委員会の設置

- 福祉・芸術文化・教育・NPOの支援機関などの分野から14人の協力委員を設置しました。
- 協力委員会は年間2回開催。事業の立案・運営・広報と事業の評価を実施しました。過去2年と同様、相談業務、研修会や展示会に関するアドバイザーを担っていただきました。

その他

障害者芸術活動支援センター@宮城は2014年度にwebサイトを作成し、SOUPに関する活動内容・お知らせ・お問い合わせ・宮城のアートスペースなどをコンテンツとして表示していますが、これに調査・発掘、評価・発信事業により22人の作家・作品を「宮城の作家」として公開しました。

※詳細は [60-61ページ](#)

人をつくる、地域をつくる、文化をつくる

今、ここがないならみんなで作ろう。SOUPの活動がうぶ声をあげたのは2014年の春でした。あせらず、辛抱強く、そして自ら花開かせるような環境づくりを大切にしたい。そんな思いが参加者にも協力者にも通底して流れ、3年間の歩みの中で生まれた累計がこのデータになります。そしてこのデータは、現在、立法の作業をすすめている「障害者の芸術活動支援基本法」の必要性また基本姿勢に、いくばかりかでも政策提言してきたことを自負したいと思います。東日本大震災を体験したわたしたち。人が、地域が、文化をつくります。宮城は、障害のある人・家族、福祉、芸術文化、教育、NPO、企業、行政が一体となって、これからも活動を推進していきたいと思います。

出展作家、出展作品、来場者の累計 (2017年3月31日現在)

出展作家:149人	出展数:481点	来場者数:13,725人
-----------	----------	--------------

宮城をめぐる参加型展示会 2015—2016—2017

はじめましてSOUP展: 2015年1月15日～18日 [4日間] / せんだいメディアテーク		
出展作家:10人	出展数:43点	来場者数:1,800人
やまのものとアート展: 2015年2月15日～3月22日 [37日間] / 山元町内6会場		
出展作家:10人	出展数:104点	来場者数:2,000人
いしのまきのアート展: 2015年10月23日～11月23日 [32日間] / 石巻市内19会場		
出展作家:19人	出展数:143点	来場者数:5,000人
きてみてあじわうSOUP展: 2015年12月13日～15日 [3日間] / せんだいメディアテーク		
出展作家:12人	出展数:44点	来場者数:2,500人
めぐるみやぎのアート展(くりのはら・いしのまき・やまのものとアート展): 2016年11月5日～12月25日 [51日間]		
出展作家:78人	出展数:110点	来場者数:1,065人
SOUPのレシビ展 10のレシビ・100のキーワード: 2017年1月28日～1月30日 [3日間] / せんだいメディアテーク		
出展作家:20人	出展数:37点	来場者数:1,360人

相談支援件数の推移 (2017年3月15日現在)

相談内容	1年目	2年目	3年目
創作環境に関する相談	41	53	54
展示機会に関する相談	29	54	64
作品の出展に関する相談	14	7	4
作品の2次利用に関する相談	28	27	55
作品販売に関する相談	10	3	13
作者との作品の取扱全般に関する相談	-	4	14
成年後見制度利用に関する相談	-	2	0
取材に関する相談	27	10	17
その他の相談	9	1	28
合計	158	161	249

人材育成研修の参加者数 (2017年3月31日現在)

研修回数:42回	参加者数:806人
----------	-----------